



**住友ゴム工業株式会社**  
SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.

## **住友ゴム工業株式会社**

2024 年 12 月期第 1 四半期決算説明会

2024 年 5 月 13 日

## イベント概要

---

[企業名] 住友ゴム工業株式会社

[企業 ID] 5110

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2024 年 12 月期第 1 四半期決算説明会

[決算期] 2024 年度 第 1 四半期

[日程] 2024 年 5 月 13 日

[ページ数] 33

[時間] 18:00 – 18:50  
(合計：50 分、登壇：24 分、質疑応答：26 分)

[開催場所] インターネット配信

[会場面積]

[出席人数]

[登壇者] 4 名  
代表取締役 社長 山本 悟 (以下、山本)  
代表取締役 専務執行役員 西口 豪一 (以下、西口)  
取締役 常務執行役員 大川 直記 (以下、大川)

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



執行役員 経理財務本部長

日野 仁 (以下、日野)

[アナリスト名]\*

SMBC 日興証券

牧 一統

大和証券

坂牧 史郎

\*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

---

## サポート

日本

050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptsasias.com



## 登壇

---

**中山：**ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。これより、住友ゴム工業株式会社の2024年12月期第1四半期決算説明会を開催いたします。

本日の司会進行役を務めさせていただきます、住友ゴム工業株式会社 IR 室の中山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず初めに、本日の出席者を紹介させていただきます。住友ゴム工業株式会社 代表取締役社長、山本悟でございます。

**山本：**山本でございます。よろしくお願いいたします。

**中山：**続きまして、代表取締役専務執行役員、西口豪一でございます。

**西口：**西口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**中山：**取締役常務執行役員、大川直記でございます。

**大川：**大川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**中山：**執行役員 経理財務本部長、日野仁でございます。

**日野：**日野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**中山：**本日の説明会は、弊社 Web サイト上に掲載しております資料に沿って行わせていただき、画面にも投影いたします。まず初めに社長の山本より、2024年12月期第1四半期決算概要と、現在の主な取り組みについてご説明のあと、常務の大川より決算内容詳細についてご説明いたします。説明終了後、皆様よりご質問を承りたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、山本よりご説明いたします。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 24年1-3月業績

- 過去最高の売上収益 (2,914億円) ならびに事業利益 (232億円)、営業利益 (207億円) 四半期利益 (248億円) を更新、事業利益率は8.0%
- タイヤ事業 **売上収益と事業利益が過去最高**  
前年同期比 増収増益 (海外市販用が北米や欧州で増販)
- スポーツ事業 **売上収益が過去最高**  
前年同期比 増収減益 (ゴルフが日本や北米で増販、テニスで欧州で販売減)
- 産産品他事業 前年同期比 減収増益 (インフラ関連製品が増販、OA機器用ゴム部品や生活用品が販売減、医療用ゴム製品が販売減)

## 現在の主な取り組み

## ■ タイヤ事業 運営・組織体制再構築

2024年初めにタイヤ事業本部発足 (製造・販売・技術を一体化) →さらなる収益向上へ

## ■ 構造改革

北米と北米以外の先行して取り組んでいる事業について2024年中に目処付け

## ■ 成長事業の基盤づくり

- **アクティブトレッド技術** ~あらゆる道にシンクロするゴム~  
アクティブトレッドを搭載したオールシーズンタイヤを2024年秋に上市
- **センシングコア** ~センシング技術で危険を事前に察知~  
フリート事業者および自動車メーカーによる採用へ、自動運転の分野にも貢献



6

**山本**：社長の山本でございます。本日は大変お忙しい中、当社の2024年12月期第1四半期決算説明会にご参加をいただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、第1四半期の業績の概要と現在の主な取り組みについて、ご説明をさせていただきます。スライドの6番をご覧くださいと思います。

2024年度第1四半期の当社グループの売上収益並びに事業利益、営業利益、四半期利益はともに過去最高を更新いたしました。

中期計画で財務目標として掲げております事業利益率におきましても、8.0%の水準にまで向上させることができました。

タイヤ事業の売上収益と事業利益も、過去最高を更新いたしました。タイヤ事業では、主に海外市販用タイヤを北米や欧州で増販することができました。北米のピックアップトラックやSUV向けの主力商品でありますファルケン、ワイルドピークシリーズの販売が引き続き好調を維持しております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

今年、満を持して発売させていただきました新商品、ワイルドピーク AT4W はアグレッシブなデザインや性能がお客様から大変ご好評をいただきまして、おかげさまで順調に販売を伸ばしております。近年力をつけてきております現地販売基盤をベースに、拡販してまいります。

スポーツ事業では、主力市場の北米や日本でゴルフクラブを増販いたしました。昨年 12 月に発売いたしました XXIO 13 も順調に販売を伸ばしております。テニスボールは、スエズ運河運航不可の影響を受けまして、洋上在庫が増えたことなどから、欧州での販売が減少いたしました。

産業品他事業では、インフラ関連製品では増販いたしました。OA 機器用ゴム部品や生活用品は減少いたしました。医療用ゴム製品では、1 月末に欧州の子会社を売却したことに伴いまして、売上が減少いたしました。

次に、現在の主な取り組みについてお話させていただきます。今年 1 月にタイヤ事業本部を発足いたしました。製造・販売・技術の組織を一体化させました。部門間の連携が強化されまして、様々なアクションにおいてスピードアップに繋がっております。各セクションのスタッフが連携してタイヤ事業を運営していくことにより、更なる収益力の向上を図ります。

そして、既存事業の選択と集中のための構造改革の最優先課題であります北米事業につきましては、今年中の目処付けに向けて前進しております。現時点で明確な時期をお話することはできませんが、皆様にお伝えできる日も近づいていると感じております。

また、北米以外の、先行して取り組んでいる事業につきましても今年中に目処付けをいたします。

さらに、成長事業の基盤作りといたしまして、当社の独自技術でありますアクティブトレッド技術とセンシングコアによる事業展開を進めております。

路面状況に応じて性能がスイッチする新発明のゴム技術、アクティブトレッドは昨年 10 月にジャパンモビリティショーでコンセプトタイヤを初公開し、その後も順調に開発を続けております。今年の秋には、アクティブトレッド搭載の次世代オールシーズンタイヤを上市いたします。

北海道名寄市にあります当社のテストコースで、1 月に自らハンドルを握ってアイス性能の完成度を確認いたしました。先週は岡山のテストコースで、ドライ・ウエット性能を確認してまいりました。ドライ路面での走行性能、そして濡れた滑りやすい路面でのコーナリングや円旋回におきましても、高いウエットグリップ性能を確認することができました。アクティブトレッド技術を搭載した次世代オールシーズンタイヤの実力を体感し、さらに自信を持ちました。発売が楽しみでございます。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

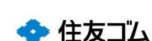


タイヤセンシング技術、センシングコアは、当社が30年以上にわたり展開してまいりました、空気圧低下警報システム、DWSを発展させたもので、タイヤを通じて得られたデータをもとに、危険の事前察知を可能にいたします。

フリート事業者様、および自動車メーカー様向けに、タイヤの空気圧や摩耗、路面状態、車輪脱落の予兆などを検知するシステムの提供を今年から開始いたします。

アクティブトレッド、センシングコア、当社の成長戦略を担う、これら二つの独自技術がともに今年からビジネスとしてスタートを切ります。ご期待いただきたいと思います。

## 2024年度 連結業績予想



	今回予想 2024年	前期実績 2023年	前期比	億円 年初予想 2024年
売上収益	<b>12,000</b>	11,774	102%	12,000
事業利益 率	<b>800</b> <b>6.7%</b>	777 6.6%	103%	800 6.7%
営業利益 率	<b>610</b> <b>5.1%</b>	645 5.5%	95%	610 5.1%
当期利益	<b>380</b>	370	103%	370
ROIC <small>※1</small>	<b>5.7%</b>	5.7%		5.7%
ROE	<b>5.9%</b>	6.3%		5.7%
ROA <small>※2</small>	<b>6.2%</b>	6.2%		6.2%
D/E Ratio	<b>0.5</b>	0.5		0.5

※1. ROIC：「税引後事業利益」÷「投下資本」  
 ※2. ROA：「事業利益」÷「総資産」

20

スライドの20番をご覧ください。

2024年通期の業績見通しは、売上収益は前期比102%の1兆2,000億円。事業利益は前期比103%の800億円。営業利益は前期比95%の610億円。当期利益は前期比約103%の380億円でございます。本年2月に発表いたしました業績見通しから、当期利益を上方修正いたしました。

## サポート

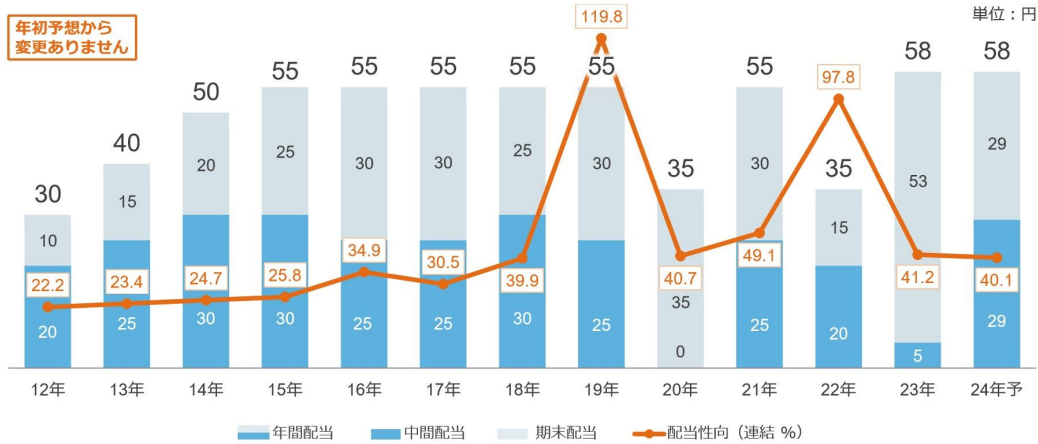
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



当社は株主への利益還元を最重要課題と認識して、連結ベースでの配当性向、業績の見通し、内部留保の水準等を総合的に判断しながら、長期にわたり安定して株主に報いることを基本方針としております。

**2024年年間配当予想について：**

1株当たり中間配当金を29円、期末配当金を29円とし、年間配当金58円を予定しております。



	19年	20年	21年	22年	23年
株主総利回り	107.1%	75.2%	101.3%	102.5%	136.2%
配当利回り※	4.1%	3.9%	4.7%	3.0%	3.8%

※配当利回り=1株当たり年間配当金+各事業年度末日株価終値

32

スライドの 32 番をご覧ください。

2024 年の配当予想につきましては、中間配当 29 円、期末配当 29 円とし、年間配当は 58 円とさせていただきます予定で、本年 2 月に発表いたしました見通しから変更はございません。

以上で、私からの説明を終了させていただきます。ありがとうございました。

**中山：**続きまして、常務の大川より、2024 年 12 月期第 1 四半期決算の詳細についてご説明させていただきます。

**大川：**大川でございます。今日は、弊社の決算説明会にご参加いただきありがとうございます。

平素より、ステークホルダーの皆様方には大変お世話になっております。この場をお借りいたしまして、深く感謝申し上げます。

それでは私より、2024 年度第 1 四半期の決算内容につきまして、ご説明させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com





億円

	2024年 1-3月	2023年 1-3月	前年 同期比	前期実績 2023年
売上収益	<b>2,914</b>	2,768	105%	11,774
事業利益 率 ※1,3	<b>232</b> <b>8.0%</b>	80 2.9%	291%	777 6.6%
営業利益 率 ※3	<b>207</b> <b>7.1%</b>	78 2.8%	266%	645 5.5%
四半期利益 ※2,3	<b>248</b>	40	620%	370

※1. 事業利益 : 売上収益 - (売上原価 + 販売費及び一般管理費)

※2. 四半期利益 : 親会社の所有者に帰属する四半期・当期利益

※3. 2022年第2四半期より、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」に従い、会計上の調整を加えております。

当資料では全頁にわたり上記※1,2,3を適用しております。

7

まず、スライドの7番をご覧ください。

2024年度第1四半期の連結業績は青枠内の通り、売上収益 2,914 億円、事業利益 232 億円、営業利益 207 億円、四半期利益 248 億円と、全ての項目で第1四半期の過去最高を更新いたしました。

事業利益率につきましても、昨年の 2.9% から今年は 8% まで改善しており、為替円安効果の要因が大きいものの、従前から取り組んでまいりました収益性改善効果が徐々にあらわれてきております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## 2024年1-3月 セグメント別 連結売上収益・事業利益



		2024年 1-3月	2023年 1-3月	前年 同期比	億円 前期実績 2023年
売上 収益	タイヤ	2,441	2,298	106%	10,064
	スポーツ	367	355	103%	1,266
	産業品他	106	115	92%	444
	合計	2,914	2,768	105%	11,774
事業 利益	タイヤ	183	19	945%	636
	スポーツ	42	55	77%	125
	産業品他 ※	7	6	117%	16
	合計	232	80	291%	777

※セグメント間取引消去等が含まれております。 9

スライドの9番をご覧ください。セグメント別の売上収益と事業利益です。

第1四半期の実績は、青枠内の通りです。

タイヤの売上収益は前年同期比106%の2,441億円、事業利益は183億円と、販売本数は前年同期比で減少となりましたが、第1四半期では売上収益、事業利益ともに過去最高を更新いたしました。

その下、スポーツの売上収益は前年同期比103%の367億円、事業利益は前年同期比77%の42億円と、昨年末に新発売したXXIO 13が日本や北米で増販したことなどにより、売上収益は過去最高を更新しましたが、事業利益は円安に伴う海外製造コストアップがあり、前年同期比では減益となりました。

産業品は、売上収益は前年度比92%の106億円、事業利益は前年同期比117%の7億円と、医療用ゴム製品の欧州製造販売子会社を1月末に売却したことに伴い、売上収益は減収となりましたが、事業利益は増益となりました。

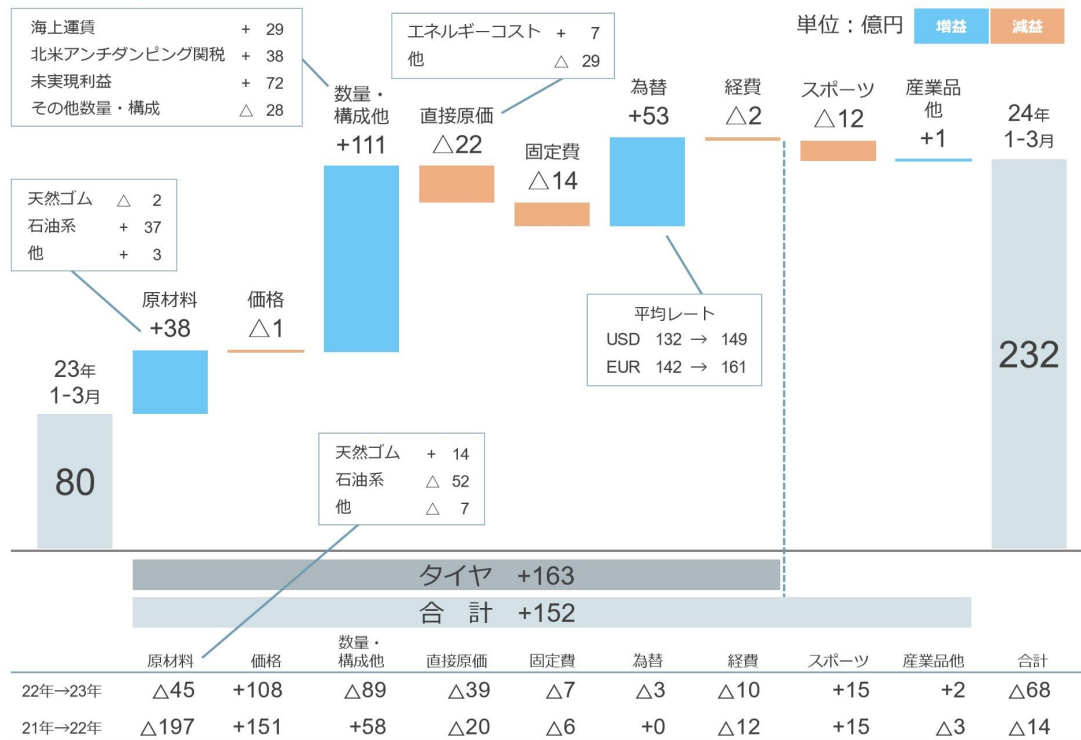
### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 2024年1-3月 連結事業利益 増減要因イメージ

住友ゴム



12

スライドの12番をご覧ください。1-3月の事業利益の前年同期からの増減要因分析です。

まず原材料価格で、石油系原材料の価格安定に伴い、プラス38億円となりました。

数量・構成他は、プラス111億円となりました。内容は左の青枠内に記載の通りで、うち北米アンチダンピング関税は、販売価格適正化に伴う還付金もあり、プラス38億円となりました。未実現利益はプラス72億円で、前年度マイナス影響との差額が大きく出ました。一番下のその他の数量・構成はマイナス28億円ですが、数量のマイナス影響が主な要因でございます。

為替は、ドル・ユーロに加えて、多くの通貨で円安に推移し、プラス53億円となりました。

その他、生産本数販売減少に伴う生産性悪化、人件費高騰等のマイナス要因はございましたが、タイヤ事業全体で163億円増益となりました。これにスポーツ、マイナス12億円、産業品、プラス1億円を加えて、全社合計では152億円の増益となりました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

	億円		増減	実績の概要		
	2023年 1-3月	2024年 1-3月				
売上収益	2,768	<b>2,914</b>	+146			
売上原価	△2,097	<b>△2,023</b>	+73			
販売費及び一般管理費	△591	<b>△658</b>	△67			
<b>事業利益</b>	80	<b>232</b>	+152	<b>1 事業利益</b>	詳細はP.6~12参照	
その他の収益	8	<b>8</b>	△1	<b>2 その他の収益</b>	実績内訳	対前年増減
その他の費用	△10	<b>△33</b>	△22	その他の営業外収益	4億円	△1億円
<b>営業利益</b>	78	<b>207</b>	+129	その他特別利益	3億円	+0億円
金融収益	29	<b>69</b>	+40	<b>3 その他の費用</b>		
金融費用	△18	<b>△17</b>	+0	その他の営業外費用	△24億円	△19億円
持分法による投資損失	△0	<b>△0</b>	+0	その他特別損失	△7億円	△4億円
<b>税引前四半期利益</b>	89	<b>259</b>	+170	固定資産除売却損	△2億円	+1億円
法人所得税費用	△42	<b>4</b>	+46	<b>4 金融収益</b>		
非支配持分	△7	<b>△14</b>	△7	為替差益	32億円	+27億円
<b>四半期利益</b>	40	<b>248</b>	+208	正味貨幣持高に係る利得	25億円	+6億円
				受取利息	11億円	+6億円
				<b>5 金融費用</b>		
				支払利息	△17億円	△4億円
				デリバティブ評価損	-	+4億円

13

スライドの 13 番をご覧ください。

連結損益計算書の事業利益以下の項目の、主な差異要因についてご説明いたします。

④の金融収益の 69 億円の主な内容は、為替の円安推移に伴う外貨債券の評価替えの益や、トルコでの超インフレ会計継続に伴う資産の時価評価再評価益によるものでございます。

為替差益は海上運賃や、原材料単価の下落等に伴い、外貨債務が減少したことにより、これまでよりも円安影響のプラス効果が大きく出ております。

また、益方向となっている法人税費用は、昨年末に減損計上をいたしました欧州医療用ゴム製品の子会社が今年に入って売却が完了したことに伴い、将来の税支払いの削減効果を取り込んだものでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## 連結バランスシートの状況



億円			
	前期実績 2023/12末	当期実績 2024/3末	増減
流動資産	6,247	<b>6,373</b>	① +126
非流動資産	6,420	<b>6,702</b>	② +282
<b>資産合計</b>	12,667	<b>13,075</b>	+408
流動負債	3,311	<b>3,275</b>	△36
非流動負債	2,942	<b>2,990</b>	+48
<b>負債合計</b>	6,253	<b>6,265</b>	③ +12
自己資本	6,241	<b>6,616</b>	④ +374
非支配持分	173	<b>194</b>	+21
<b>資本合計</b>	6,414	<b>6,810</b>	+396
<b>負債及び資本合計</b>	12,667	<b>13,075</b>	+408
自己資本比率	49.3%	<b>50.6%</b>	+1.3P

主な増減要因	
<b>① 流動資産</b>	対前期末増減
棚卸資産	+146億円
現金及び現金同等物	△77億円
その他の流動資産	+40億円
営業債権及びその他の債権	+18億円
<b>② 非流動資産</b>	
有形固定資産	+116億円
その他の金融資産	+75億円
無形資産（のれん含）	+42億円
繰延税金資産	+20億円
<b>③ 負債合計</b>	
有利子負債	+133億円
未払法人所得税	(3,109 → 3,242)
営業債務及びその他の債務	△90億円
その他の流動負債	△75億円
	+46億円
<b>④ 自己資本</b>	
四半期利益	+248億円
為替換算調整額	+228億円
配当支払	△139億円

14

次に、スライドの 14 番をご覧ください。連結バランスシートの状況です。

資産の合計は 1 兆 3,075 億円。負債と資本の割合はほぼ半分ずつで、為替円安に伴う外貨資産の評価額が増加したことなどにより、自己資本比率も 50.6%と、前期末対比で 1.3 ポイント上昇となりました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 2024年1-6月 連結業績予想



億円

	今回予想 2024年 1-6月	前年同期 2023年 1-6月	前年 同期比	年初予想 2024年 1-6月	今回予想 2024年 4-6月	前年同期 2023年 4-6月
売上収益	<b>5,750</b>	5,612	102%	5,750	2,836	2,844
事業利益 率	<b>375</b> <b>6.5%</b>	171 3.0%	220%	345 6.0%	143 5.0%	91 3.2%
営業利益 率	<b>330</b> <b>5.7%</b>	168 3.0%	196%	300 5.2%	123 4.3%	90 3.2%
四半期利益	<b>320</b>	82	390%	235	72	42

16

スライドの 16 番をご覧ください。2024 年度上期の連結業績予想です。

青枠内の通り、売上収益 5,750 億円、事業利益 375 億円、営業利益 330 億円、四半期利益 320 億円と、増収増益と予想しております。

青枠表の三つ右側に記載しております年初予想との比較では、売上収益は据え置き、事業利益、営業利益、四半期利益を増益修正いたしました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



億円

		今回予想 2024年 1-6月	前年同期 2023年 1-6月	前年 同期比	年初予想 2024年 1-6月	今回予想 2024年 4-6月	前年同期 2023年 4-6月
売上収益	タイヤ	4,820	4,711	102%	4,835	2,379	2,413
	スポーツ	745	681	109%	745	378	327
	産業品他	185	219	84%	170	79	104
	合計	5,750	5,612	102%	5,750	2,836	2,844
事業利益	タイヤ	285	98	292%	255	102	78
	スポーツ	80	64	124%	80	38	10
	産業品他 <sup>*</sup>	10	9	113%	10	3	3
	合計	375	171	220%	345	143	91

※セグメント間取引消去等が含まれております。 18

スライドの18番をご覧ください。2024年度上期の予想の売上収益と事業利益を、セグメント別に分解した数字です。

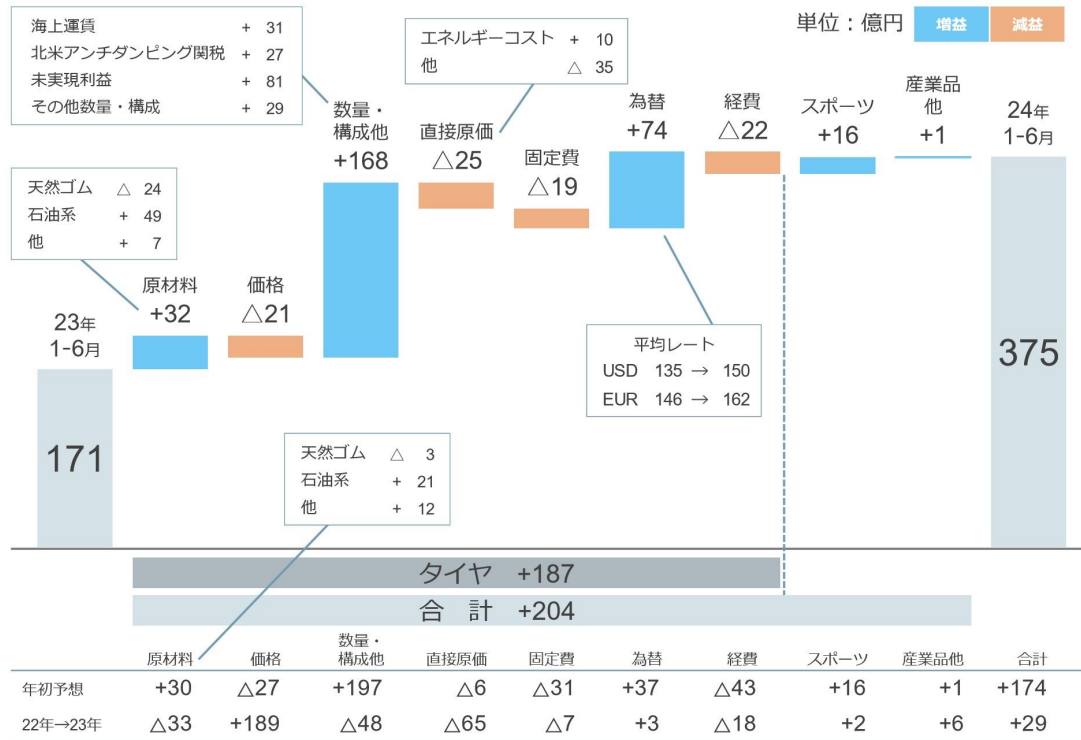
前年同期比では、タイヤ、スポーツ事業で増収増益、産業品で減収増益を見込んでおります。年初予想対比では、タイヤのみ増益修正しております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## 2024年1-6月 連結事業利益 増減要因イメージ

住友ゴム



19

スライドの 19 番をご覧ください。上期の事業利益の前年同期からの増減要因分析です。

基本的に 1-3 月実績の傾向が継続する予想ですが、一方で 4-6 月には、グローバル市場での値下げ圧力や、1-3 月からの期ずれに伴う経費増等も加わることで、タイヤ事業は 1-3 実績から若干増加の昨年比 187 億円の増益を見込んでおります。

一方、スポーツはプラス 16 億円、産業品はプラス 1 億円で、連結合計では 204 億円の増益を見込んでおります。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally



## 2024年度 連結業績予想



	今回予想 2024年	前期実績 2023年	前期比	億円 年初予想 2024年
売上収益	<b>12,000</b>	11,774	102%	12,000
事業利益 率	<b>800</b> <b>6.7%</b>	777 6.6%	103%	800 6.7%
営業利益 率	<b>610</b> <b>5.1%</b>	645 5.5%	95%	610 5.1%
当期利益	<b>380</b>	370	103%	370
ROIC ※1	<b>5.7%</b>	5.7%		5.7%
ROE	<b>5.9%</b>	6.3%		5.7%
ROA ※2	<b>6.2%</b>	6.2%		6.2%
D/E Ratio	<b>0.5</b>	0.5		0.5

※1. ROIC：「税引後事業利益」÷「投下資本」

※2. ROA：「事業利益」÷「総資産」

20

スライドの 20 番をご覧ください。2024 年度の連結業績予想です。

青枠内の通り、売上収益は対前期比 102%の 1 兆 2,000 億円、事業利益は同じく 103%の 800 億円、営業利益は 95%の 610 億円、当期利益は 103%の 380 億円といたしました。

なお、年初予想比では、当期利益のみプラス 10 億円、上方修正しております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2024年度 セグメント別 連結売上収益・事業利益予想



		今回予想 2024年	前期実績 2023年	前期比	億円 年初予想 2024年
売上 収益	タイヤ	10,320	10,064	103%	10,330
	スポーツ	1,315	1,266	104%	1,315
	産業品他	365	444	82%	355
	合計	12,000	11,774	102%	12,000
事業 利益	タイヤ	665	636	105%	665
	スポーツ	110	125	88%	110
	産業品他 ※	25	16	155%	25
	合計	800	777	103%	800

※セグメント間取引消去等が含まれております。 22

スライドの 22 番をご覧ください。2024 年度のセグメント別売上収益、並びに事業利益の予想でございます。

青枠の下から 4 行目のタイヤの事業利益ですけれども、右隣、2023 年実績の 636 億円から 665 億円と 5%の増益予想でございます。

その下のスポーツは減益、産業品他は増益の予想としております。

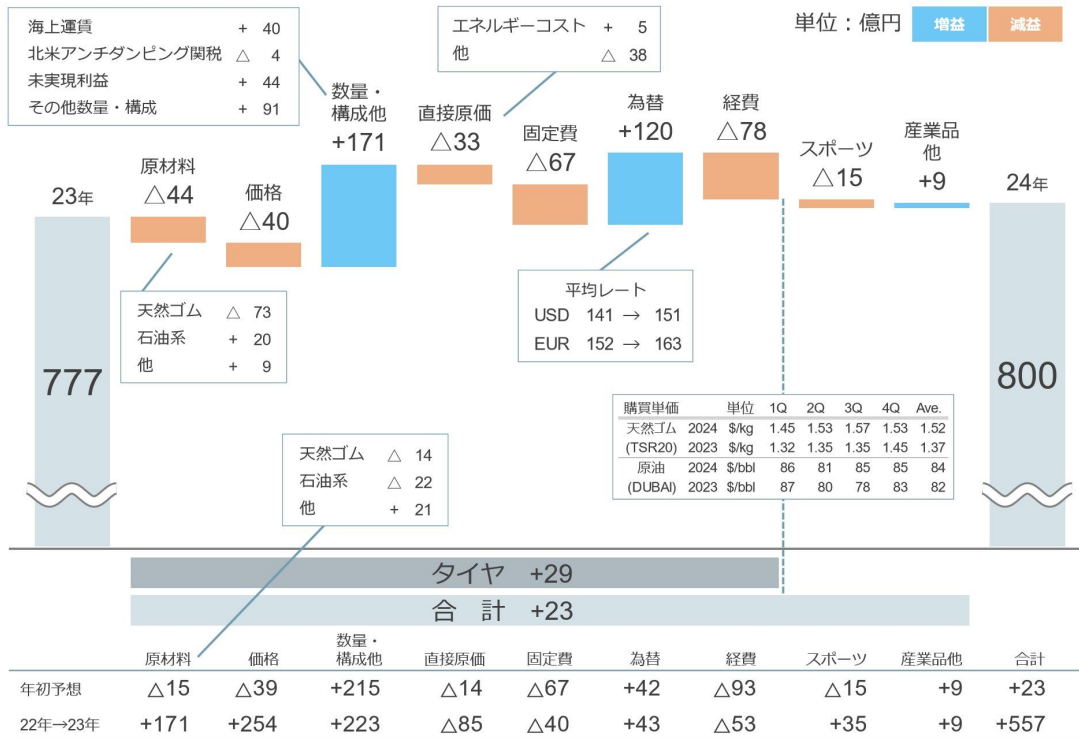
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 2024年度 連結事業利益 増減要因イメージ

住友ゴム



23

スライドの23番をご覧ください。24年度年間の事業利益の前期からの増減要因分析でございます。

まず、原材料価格はマイナス44億円と予想しており、上期予想比では主に天然ゴム単価のアップを見込んでおります。

数量・構成他はプラス171億円です。内訳は左上吹き出しの通りで、海上運賃のプラス40億円や、未実現利益のプラス44億円に加えて、その他数量・構成プラス91億円を見込んでおります。数量・構成の内訳は数量効果と構成他でおおよそ半々で見込んでおります。

直接原価、固定費は各々、マイナス33億円とマイナス67円で、ともに人件費増が主な内容でございます。

為替は、プラス120億円を見込んでおります。

経費は、DX投資や広告宣伝費の増加等に伴い、マイナス78億円で、タイヤ事業全体ではプラス29億円、スポーツ事業では、将来を見据えたビジネス関連経費増等でマイナス15億円、産業品はプラス9億円で、全社合計ではプラス23億円の増益と予想しております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS  
Asia's Meetings, Globally

億円

期間	事業利益		増減要因									
		前年同期比	原材料	価格	数量・構成他	直接原価	固定費	為替	経費	スポーツ	産業品他	
23年	1-3月	80	△68	△45	+108	△89	△39	△7	△3	△10	+15	+2
	4-6月	91	+97	+12	+81	+41	△26	△0	+6	△8	△13	+4
	7-12月	606	+528	+204	+65	+271	△20	△33	+40	△35	+33	+3
	前期	777	+557	+171	+254	+223	△85	△40	+43	△53	+35	+9
24年	1-3月	232	+152	+38	△1	+111	△22	△14	+53	△2	△12	+1
	4-6月予	143	+52	△6	△20	+57	△3	△5	+21	△20	+28	+0
	7-12月予	425	△181	△76	△19	+3	△8	△48	+46	△56	△31	+8
	当期	800	+23	△44	△40	+171	△33	△67	+120	△78	△15	+9
年初予想との差			+0	△29	△1	△44	△19	+0	+78	+15	+0	+0

24

スライドの 24 番をご覧ください。

ここでは、表の一番下に記載しております年初予想、つまり前回公表との差異が大きい項目をご説明いたします。

原材料が、天然ゴム価格上昇を見込んでマイナス 29 億円。数量・構成は主に売上数量減に伴い、マイナス 44 億円。また、直接原価も人件費増でマイナス 19 億円。これらのネガ要因を円安進行による為替プラス効果、プラス 78 億円などでカバーし、全社合計では年初予想と同額としております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

対前年	2023年実績					2024年1-3月実績、4-12月予想					2024年年初予想			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	年間	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	年間	1-6月	7-12月	年間	
国内新車	112%	121%	108%	108%	112%	<b>78%</b>	95%	96%	96%	<b>91%</b>	99%	99%	99%	
国内市販	98%	108%	89%	97%	98%	<b>86%</b>	99%	107%	110%	<b>101%</b>	96%	109%	102%	
海外新車	101%	108%	92%	101%	100%	<b>90%</b>	92%	101%	101%	<b>96%</b>	100%	105%	102%	
海外市販	87%	94%	97%	96%	93%	<b>100%</b>	97%	108%	108%	<b>103%</b>	98%	109%	103%	
海外市販内訳	北米	81%	92%	109%	100%	95%	<b>107%</b>	92%	104%	104%	<b>102%</b>	99%	103%	101%
	欧州	90%	85%	100%	91%	92%	<b>102%</b>	108%	103%	103%	<b>104%</b>	102%	104%	103%
	アジア	91%	104%	89%	92%	94%	<b>93%</b>	92%	119%	118%	<b>105%</b>	95%	118%	106%
	その他	85%	93%	91%	102%	92%	<b>100%</b>	97%	107%	107%	<b>103%</b>	98%	110%	104%
計	94%	101%	96%	99%	97%	<b>93%</b>	96%	105%	106%	<b>100%</b>	98%	107%	102%	
合計本数 (万本)	2,645	2,686	2,685	2,819	10,836	<b>2,461</b>	2,583	2,824	2,977	<b>10,846</b>	5,228	5,872	11,100	

25

スライドの 25 番をご覧ください。タイヤ販売本数の前年同期比の推移でございます。

左青枠下側に記載の通り、1-3 月の販売本数は 2,461 万本と、対前年同期で 93%となりました。

市場別で見ますと、まず国内新車は一部の OEM メーカー減産に伴い、78%。国内市販は夏タイヤの交換需要のずれによる販売減で 86%。海外新車は 90%、海外市販は 100%です。

海外市販を地域別に見ますと、北米が 107%、欧州 102%、アジア 93%、その他 100%です。北米は、主力商品であるワールドピークシリーズが依然好調で、新製品の AT4W も順調に拡販できております。また、欧州も販売堅調で、対前年で増販となりました。一方、アジアは市況低迷などにより減販となっております。

続いて、2024 年度の年間販売本数ですけれども、右側の枠下側に記載の通り、1 億 846 万本と、おおよそ前年並みと見込んでおります。

市場別に見ますと、まず国内新車は 1Q の減産からの回復を見込むものの、対前年で 91%としております。国内市販は 101%、海外新車は 96%、海外市販は 103%としておりまして、地域別で見ますと、北米が 102%、欧州 104%、アジア 105%、その他 103%を見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

一番右端の年初予想と比べますと、年間合計では2%減と見込みました。国内新車が99%から91%、海外新車が102%から96%へ減少となります。国内新車は、足元の減産の状況を考慮しております。海外新車は、主に東南アジアの日系OEMメーカーの減産影響で減少を見込んでおります。

## カテゴリ別タイヤ販売本数 前年同期比



対前年同期	2023年1-3月実績				2023年1-12月実績			
	新車	市販	計	構成比	新車	市販	計	構成比
乗用車用	104%	92%	95%	89%	105%	96%	98%	88%
うち高機能タイヤ <sup>※1</sup>	111%	102%	105%	37% <sup>※2</sup>	117%	103%	108%	38% <sup>※2</sup>
トラック・バス用	114%	82%	84%	3%	112%	83%	85%	4%
二輪・産業用他	111%	67%	84%	8%	103%	85%	92%	9%
合計	105%	90%	94%	100%	105%	94%	97%	100%

対前年同期	2024年1-3月実績				2024年1-12月予想			
	新車	市販	計	構成比	新車	市販	計	構成比
乗用車用	86%	95%	92%	88%	93%	101%	99%	87%
うち高機能タイヤ <sup>※1</sup>	99%	102%	101%	41% <sup>※2</sup>	103%	106%	105%	40% <sup>※2</sup>
トラック・バス用	106%	87%	89%	3%	119%	103%	104%	4%
二輪・産業用他	76%	121%	98%	9%	102%	116%	110%	10%
合計	85%	96%	93%	100%	94%	103%	100%	100%

### <年度別高機能タイヤ構成比率推移><sup>※2</sup>

高機能 タイヤ <sup>※1</sup>	2022年実績		2023年実績	2024年予想
	新車	44%	50%	55%
	市販	31%	33%	34%
計	35%	38%	40%	

※1. 高機能タイヤ：主にSUV用タイヤ及び18インチ以上の乗用車用タイヤ  
 ※2. 乗用車用タイヤに対する構成比率

26

スライドの26番をご覧ください。

青枠内2024年1-3月実績内の構成比をご確認いただきますと、乗用車用タイヤが大部分を占めており、88%となっております。このうち高機能タイヤは41%です。主に北米や欧州向けなどで、高機能タイヤの販売を着実に伸ばしております。

ページ下の年度別高機能タイヤの構成比率の推移を見ますと、年間では昨年実績比でプラス2ポイントとなる40%と予想しております。

## サポート

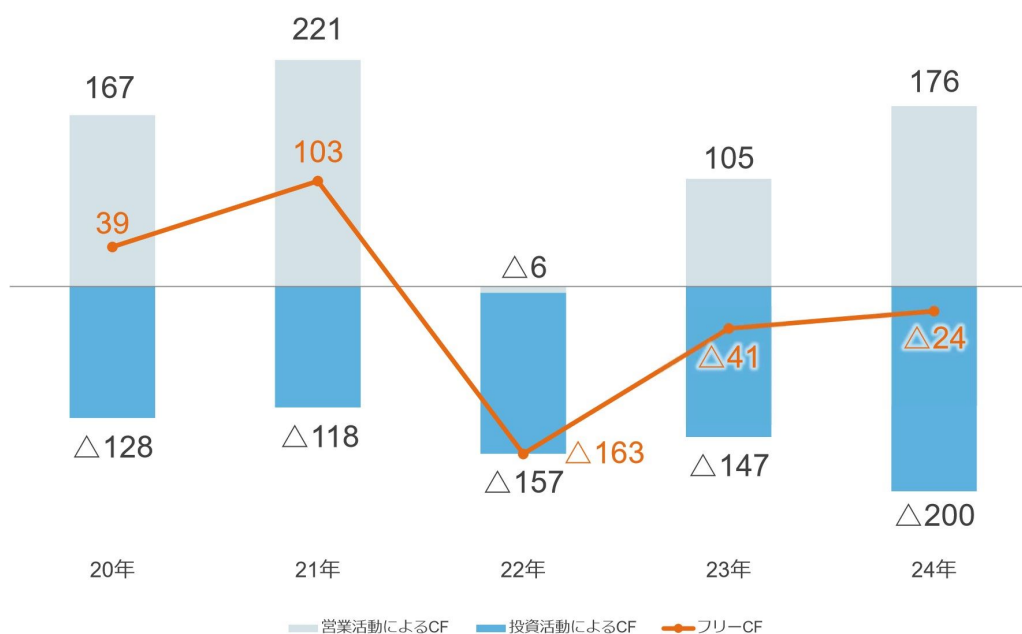
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 1-3月 キャッシュ・フローの推移



単位：億円



28

続きまして、スライドの 28 番をご覧ください。キャッシュ・フローの推移です。

右端、2024 年 1-3 月の営業キャッシュ・フローはプラス 176 億円と、前年から 71 億円の増加となりました。

国内市販の夏タイヤ交換需要のずれに伴い、一時的に在庫が増加していることや、前年分の税金支払い分増加の一方で、海上運賃や原材料価格の下落に伴う利益増の結果でございます。

また、投資キャッシュ・フローは、設備更新、ESG 等の対応の投資に加えて、DX 関連の無形投資を実施したことなどにより、マイナス 200 億円となっております。結果、差し引きのフリーキャッシュ・フローはマイナス 24 億円となりました。

### サポート

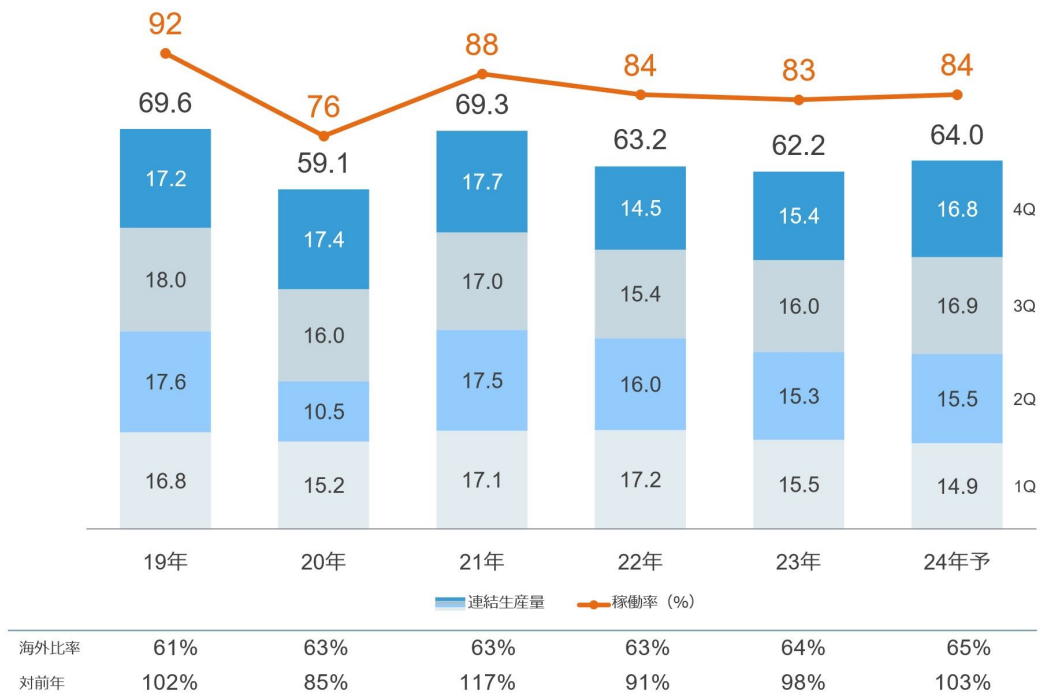
日本 050-5212-7790    米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744    メールアドレス support@scriptsasias.com



## 年間タイヤ設備稼働率、生産量の推移

住友ゴム

単位：万t



31

最後に、スライドの 31 番をご覧ください。タイヤの設備稼働率、生産量の推移です。

表、一番右端の 2024 年度の年間生産量は、前年並みの 64 万トン、年間稼働率は 84%としており、年初予想からは若干生産量を減らしております。

以上で、ご説明を終了いたします。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

**SCRIPTS**  
 Asia's Meetings, Globally



## 質疑応答

---

**中山 [M]**：それでは、これより皆様からのご質問をお受けしたいと思います。

ご所属の会社名、お名前のあとに、ご質問をお願いいたします。恐れ入りますが、時間の都合上、ご質問はお一人様2問までとさせていただきます。

それでは、SMBC 日興証券の牧様、ご質問をお願いいたします。

**牧 [Q]**：お世話になっております。SMBC 日興証券の牧です。私から2問、よろしく申し上げます。1点目は業績についてになります。

まず、1クォーターの決算について、一過性とか特殊要因などがあれば教えてください。例えば、ダンピング課税のところで還付金の話をされていたと思いますので、どの程度これが効いているかということ。

あとは、数量・構成のところがマイナスに効いていると思います。SKUの削減など、改革もされていたと思いますし、2クォーターからは回復する想定ですので、ここはビハインドしている背景を改めて教えてください。

一方で、通期では、事業利益は上期引き上げ、下期引き下げですので、1クォーターの計画が増えた分だけ調整された格好になると思いますけれども。そういう理解でいいのかっていうのと、通期あえて修正されなかった背景も教えていただければと思います。

アメリカ・アジアの輸入品の増加とか、そういったリスクもあるのかなと思いますので、それも含めた通期のリスク・オポチュニティというところを教えてください。こちらが1点目です。

**山本 [M]**：ご質問、ありがとうございます。まず、1クォーターの特殊要因につきましては、大川から、詳細ご説明させていただきます。それから、数量・構成の変化につきましては、タイヤ事業の統括をしております西口から、説明をさせていただきます。

**大川 [A]**：はい、それでは私から、まずは今期の一過性の要因がありますかというご質問で。ご指摘の通り、北米アンチダンピング関税につきましては、1-3月で38億円とでておりますけれども、そのうち約30億円弱につきましては、過去の還付がございまして、これがどちらかという一過性でございます。残りの10億円程度につきましては、今後も出てくる数字だろうと考えております。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



また、あえて言いますと、やはり為替の円安でございます。これは円安が今後どうなるかわかりませんが、今回につきましては、為替が全体の業績を底上げしているようにも感じられますので、これが今後も続くかどうかについては、われわれが知る由ではございませんけれども。一過性であれば一過性、円安が続くとなれば、さらにこれが続くのだらうなと考えております。以上でございます。

**西口 [A]**：：それでは、1クォーターでご質問のありました数量と構成のバランスのところですか。まず大川が説明しました、説明資料の12ページですか。ここに数量・構成他でプラス111億となっているんですが、その中で今言いましたアンチダンピングも入っております。

ご質問の数量と構成のところでございますと、この内訳が数量・構成他でマイナス28で、若干他の要因もありますけども、大体数量と構成でマイナス28億だと。この内訳が1クォーターで数量の減による分がマイナス45億、構成の良化ができたという部分でプラス17億、出来上がりがマイナス28となっております。

販売の数量のところは、説明資料にありました25ページを見ていただきますと、1-3月につきましては、国内の新車用と海外の新車用は落ちました。国内の新車用は、日系のOEMメーカーさんの生産減によるものです。

海外の新車用につきましても、アジアを中心とした日系メーカーさんの減ということで、国内のほうは生産調整の部分がありました。海外のほうはわれわれが主力にしておりますタイ、それから、インドネシア、そして中国も入りますが、やはり政府がEV系に支援を出していることで、それ以外の車のところで販売が落ち込んだ分で、新車用は国内外ともに落ちました。

それと、数量の減でマイナス45億と大きく効いたのが、全体の数量の原因もあるんですが、国内の市販用が、われわれの利益頭ですけども、1-3月で見ますと、やっぱり冬タイヤの販売が芳しくなかったこと。寒い日が続いて、春需が非常に遅れて、3月から結局4月にずれ込んでしまったということで、1Qでは数量で大きくマイナスが出たという状況です。

同じ25ページの4-6、7-9、10-12と年間を見ていただきますと、国内の新車につきましては、先ほどの説明の通り、下期もあまり回復は見込めないなと見ております。

海外の新車は、昨年の下期と今年の上期見まして、若干持ち直してくるんじゃないかと。国内の市販用は、去年は暖冬で苦しみましたが、通常通りと見まして、年間では下期持ち直してくるのだらうなと見ています。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

そういったところで下期につきましては、下期といたしましても4月以降でございますが、落ちるのが主に、リプレースに比べると、利益の単価と率の低い新車用が落ちますので、その分リプレースのほうの数量挽回で、量・構成による部分と合わせて利益はプラスに出てくると、こういう構成になっております。はい、以上でございます。

**大川 [A]**：あと、上期が上がった分、下期が下がり、下期対下期で見ると減益じゃないですかという、何でそうしているんですか、というご質問です。正直申しまして、先ほど私がご説明しました通り、為替の円安でかなり業績を上振れしてるところもございます。

それも踏まえまして、地政学的な問題もありまして、まだ1Qですから、あまり無理に、これが続くというよりも、やはりコンサバに見て、確実にしっかりと出る数字をお約束しようというところで、こういう数字に落ちついたとご理解いただければ、幸いです。以上です。

**牧 [Q]**：ありがとうございます。はい、よくわかりました。1点、アメリカで今アジアの輸入品が結構増えてきていて、影響を受けているメーカーさんもいらっしゃるんですけど。

御社にとってはこれはどうでしょう。タイからも送られていると思いますし、タイのTPAのところはあまりなかったのかなと思いますので、関税引き締めの影響もないとすると、どちらかというところプラスに効いているのか。あるいは、これはちょっと、ここもリスクを見ないといけないってことなのか。この輸入が増加していることの影響を、どう捉えられているのかを教えてください。

**西口 [A]**：はい、私、西口から北米のところを少し詳しく説明します。ご指摘、ご質問の通り、タイのAD関税が全メーカー的に下がりました。われわれもすごく下がりて還付が出ているわけですけども。そういった形で、アメリカに向かっての輸入品は増えていると見ています。

トラック・バス用も増えていっているということで、トランプ、もしトラですね、それを見込んで関税が上がることも懸念して、より加速しているんじゃないかなとは見ています。

われわれへの影響ですが、25ページで示しました、北米の市販用タイヤの対前年という部分でいきましたら、われわれが主力でやっておりますファルケン、ワイルドピークの販売の部分と、プライベートブランド等を提供しておりました部分、昨年止めていきました。

それと、直接輸出ビジネスで西海岸東海岸の大手リテイラー様向けに出している分と。あと、グッドイヤー向けにダンロップブランドを出しているんで、大きくこういう三つ、四つの商流からなっているんですけども。全体を合わせますと1-3月で107、全体で102ですが。主力のワイルドピークにつきましては、二桁以上をキープできております。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



A/T3W から A/T4W への切り替えが非常に上手くいっているということで、ご質問のありました部分でいきますと、こちらの部分は影響を受けないんじゃないかなと考えています。よろしいでしょうか。

**牧 [Q]**：ありがとうございます。一つ確認ですけど、アンチダンピング課税のところは一時的に戻りはあったと思いますけど、まだ下げる余地はあるということでしょうか。

**西口 [M]**：関税率ですか。

**牧 [Q]**：そうですね。関税率が下がって、まだプラスが出てくる余地というのは、どのように捉えられていらっしゃるのでしょうか。

**西口 [A]**：現状6%ぐらいまで下がってまいりましたので、われわれがちゃんとビジネスをやっていることが商務省にも認められている結果だと思えますけども。これからは、上がる要因はあまりないと思っています。ちゃんとビジネスをやっているエビデンスが出せれば、そのリスクはないかなと思っています。

**牧 [Q]**：はい。わかりました。ありがとうございます。2点目ですけど、アメリカのバッファロー工場についてです。一応、ここはご想定に対して、この1クォーター業績はどうだったかを教えてください。

加えて、先ほど時期が近づいているというお話でしたので、再編についてある程度、結論がついてきていることなのかなと思いますけれども。年末までというご判断の期間があった中で、少しこれは前倒しになっているという理解でよろしいでしょうか。どういう状況の変化があって、その時期が近づいていると言われているのかというところを教えてください。

**山本 [A]**：ありがとうございます。バッファロー工場につきましては構造改革の1丁目1番地ということで、今取り組んでおります。まだ、決定等、全くしておりませんので、詳細は申し上げられないんですけども。今、バッファロー工場の現状としては、ファルケンブランドのPROG5という商品が、あるお客様から非常に発注をいただきまして、その生産増がまずは一つ寄与しております。

それから、様々な改善は今まで着々と進めてきて、少しずつは改善が進んでいまして、生産量につきましてはきっちりと計画通りに取れる方向に今、進んできております。

さらに、利益面ということでは、新商品のA/T4W、この生産をバッファロー工場を開始をいたしましたので、この利益の改善に向けてのステップというのは少しずつ進んできております。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ただ、今、将来に向かって、当社の将来にとって、このバッファロー工場を含めた北米市場への供給体制ということでは、今、あらゆる選択肢を土俵に乗せて、引き続き検討を進めております。様々な改善、それから様々な試算といいますか、データに基づいた判断、ジャッジをしていくところは、詰めてきているところがございますので、適切なタイミングで目処付けをしていきたいと思っております。

また、その時点で皆様方にお伝えをしていきたいと思っております。すみません。明快な回答でなくて申し訳ないんですけど。

**牧 [Q]**：わかりました。ちなみに一応、グッドイヤーさんとかは一応ダンロップ含む事業再編関連で、2クォーターには進捗発表するような話をされていたりもします。

こういう話があると、御社のキャッシュアウトも伴うというところも気になるところはあるんですけども。こういった話とアメリカの再編の時期というのは、切り離して考えていいものでしょうか。これによって再認識が遅れるとかではなくて、今のお話だとそれはそれで済んでいるんで、近々発表されるというような、そんなニュアンスで理解すればよろしいでしょうか。

**中山 [M]**：今のご質問をちょっと整理させていただきますと、ダンロップの商標権のお話と北米の構造改革再編との関連性というところでよろしかったでしょうか。

**牧 [M]**：そうですね。ありがとうございます。

**山本 [A]**：はい、ダンロップブランドについては、グッドイヤーさんのほうで、今、売却に出されているのはもちろん承知しております。当社にとっても事業領域が広がっていきますので、関心はありますので。ただ、今、詳細については、お話することはできないんですけども。

基本的に、まだバッファロー工場についても決定しているわけではございませんので、決めているわけではないんですけども。仮に継続する場合、そして仮に閉める場合ということで、様々な試算をいたしております。

その試算の結果と、それからまだ、ダンロップブランドについても何も決まっておきませんので、様々な試算をしている段階ですけれども、当然のことながら、キャッシュも必要になってきますので。そういったところを総合的に判断しながら、今おっしゃっていただいた二つのことをどのように対処していくかを今まさに検討しているところがございます。

**牧 [M]**：はい、よくわかりました。どうもありがとうございました。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

**中山 [M]**：牧様、ありがとうございました。次のご質問は、大和証券の坂牧様です。坂牧様よろしく申し上げます。

**坂牧 [Q]**：はい。大和の坂牧です。私から1点目、業績をもう1回確認させてください。今回、還付金で30億円弱入っているというお話ですけど、ご計画今回、第1クォーター結局、社内で持たれた計画に対してどれくらい上振れられたんでしょうか。

上期30億増額されているんですけど、事業利益をですね。これは単純に還付金で上振れた部分で、実態としてはそんなに上振れていなかった感じなんじゃないかっていう。その確認をお願いします。

併せて、2クォーター、いろいろ数字を入れられる中で、数量の増減益の数量・構成のところが50億円ぐらい増益の効果に入ってるかと思います。第2クォーターのご計画、57億で入ってるかと思うんですけど。

先ほどご紹介いただいた販売本数は減る方向ですし、北米も92%というので国内のリプレイスもあまりプラスではない中で、この数量ミックス、2クォーターでプラスになってくるところは、どういった立て付けになっているのかを確認させていただければと思います。

1クォーターのところと2クォーターのこの修正の具合について確認させてください、というのが1点目です。

**山本 [M]**：はい。ご質問ありがとうございます。1件目は大川から、2件目は西口からご回答させていただきます。

**大川 [A]**：大川でございます。1Qの社内の数字は、特別に外にディスクローズしておりませんので、あまり詳細なことは伝えられないんですけども。ただ、この還付金は実は決算を組む段階でまず返ってくるが見えておりましたので、それは元々の予算に入れておりました。

従いまして、一過性でありますけれども、これはもう予算の範囲内で出てくるものという前提で組んでおりました。それ以外にも、為替の円安等ございまして、当初我々が考えたよりも、この業績は上振れした状況でございます。金額についての詳細はちょっとご勘弁ください。以上です。

**西口 [A]**：はい。2Qの数量で特に北米のところのお話だったと思うんですけど、確かに25ページの北米の4-6、2クォーターは92%で示しているんですけど。先ほどちょっと申し上げました、われわれの北米のビジネスは現地の販売会社がやっているファルケンの部分と、それとわれわれがタイとか日本、インドネシアから輸出して、大手のナショナルのホールセラー、リテイラーに売って

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



いる輸出ビジネス。それと、グッドイヤー様向けのダンロップブランドのビジネス。こういったもので大きく成り立っています。

その中で、申しあげましたワイルドピークにつきましては二桁成長を続けるということですが、特に4-6については、輸出ビジネスのところで大手2社、取引しているところの在庫調整分が4-6少しだけ入ることを入れさせていただいています。

そういった感じで本数は減となっておりますが。輸出ですので、工場のラインアウトですので、利益率がそんな高いわけじゃありませんので。本数の減に比べると、少ないということと。

4-6月、それから下期に通じましても、先ほどの回答の重複になりますけども、本数の落ちは主にOE様向けで出てくるので、利益単価率の低いところが落ちて、リプレイス向けのところはしっかりと下期は踏ん張っていけるということで。数量の増が下期は見込めるだろうということで、構成と合わせて下期はプラスと考えております。よろしいでしょうか。

**坂牧 [Q]**：数量が減らなかったこの57億、2クォーターの増減益で見ますと、数量・構成のところがプラスで入っているのは、これ先ほどのようにミックスが結構いいものが何か入ってくるのでしょうか。数量自体は多分、マイナスだと思うんですけども。

**西口 [A]**：数量はマイナスなんですけど、ミックス、構成のところは別で捉えています。数量のところは大きく落ちますが、伸びてくる下期のリプレイスの部分が日本の高収益市場のところと、中国が挽回をしてくることと、何よりも北米のワールドピークを中心にしたところが、販売が下期も伸びてくるというところを入れておりますので。

カテゴリーの構成の良化というより、地域のリプレイス販売の、地域のミックスが良化すると。上期苦しんだ部分が下期は戻ってくる、とお考えいただければと思います。

**坂牧 [Q]**：わかりました。ありがとうございます。あと、通期のところの考え方です。先ほども大川様から、やはりまだこの1クォーターで変えるにはちょっと早いついていうお話ではあったんですけど。

どうなんでしょう、リスクとオポチュニティ、どこら辺に考えておけばというので。特に海上輸送費のところ、今度多分また5月に年間契約とかの見直しがあるかと思うんですけど、足元ちょっと上がったたり、弱含んだりってあるんですけど。ここら辺はどう、リスクとして捉えていて、どういった考え方でご計画を考えられてきたんでしょうか。

**山本 [M]**：ありがとうございます。大川から回答させていただきます。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

**大川 [A]**：はい。リスクとオポチュニティはいろいろ検討はしております。海上運賃につきましては、もうある程度の交渉の中で単価が決まっておりますので、それでこの金額は固いものだと理解しております。

一方で、先ほどご説明しましたように数量そのものが減っておりますので、若干単価が上がっても、この海上運賃の効果が出るものと理解しております。

リスクという意味ではやはり、為替の円安の状況が日米の通貨当局の動きに伴いまして、どういふふうに動くのかが非常に最大の関心事でございます。これはもう事業利益だけじゃなくて、当期利益そのものに対しても非常に大きなインパクトがございますので。その中身に依じては、やはり皆様にちゃんとお約束できる数字につきましては、若干コンサバと言われても、まだ1-3でございますので、これでお許しいただければと思っておりますし、場合によってはもっと頑張れる状況が出てくるんじゃないかと思っております。はい、以上です。

**坂牧 [Q]**：海上運賃はある程度決まって、もう年間契約を握られたっていう理解でいいですかね。

**大川 [A]**：ほぼほぼ、握っております。はい。

**坂牧 [M]**：わかりました。はい、ありがとうございます。

**中山 [M]**：坂牧様、ありがとうございます。2回目のご質問でも結構ですので、ご質問のある方は手を挙げるボタンを押していただきますよう、よろしくお願いいたします。

では、ご質問がないようですので、以上をもちまして、住友ゴム工業株式会社、2024年12月期第1四半期決算説明会を終了させていただきます。

本日はお忙しいところご参加いただきまして、ありがとうございました。

**山本 [M]**：どうもありがとうございました。

[了]

---

## 脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com